

④ロールプレイングの手法を用いた研修

《ロールプレイングで取り上げる事例》

〈事例1〉

文書の提出が遅くなっていることが気になっていたが、生徒への対応でなかなか提出できず「もう少し待って欲しい。」と言ったとき、「まだできていないんですか。他の人はもうとっくに出ていて、まとめができなくて困るんですけど…。いつまで待てばいいんですか。」と言われた。

〈事例2〉

遠慮がちに質問されたが、自分自身の仕事が締切間近で忙しいので、作業をしながら相手の顔を見ずに、話を聞いた。

〈事例3〉

生徒への対応について相談され、自分の考えを一方向的に押し付ける対応をした。

〈事例4〉

生徒への対応で手間取ってしまい、やっと招集された大切な会議に遅刻してきたとき、「こんな大切な会議によく遅れて来られるな。」と一方向的に言われた。

〈事例5〉

体育祭前であり、また、これまでも数回年休を取っているのが気がひけるが、どうしても体の具合が悪くて動けないので、年休を取る電話をしたのに対して、「こんな時によく休めるな。年休がもうなくなるぞ。」と言われた。

- 1 3、4人の小グループに分かれて、観察者を1名決める。観察者は、ロールプレイ後のそれぞれの気持ちを話し合う際のリーダー的な役割をし、感想等を記録する。
- 2 各グループで取り上げる場面を決め、役割を決める。
- 3 ロールプレイを始める前に、その場面をしっかりと想定し、それぞれの役での気持ちをつくる時間を設ける。
- 4 どのようなことをどのように感じたか、どんな気持ちになったか、どんな思いでいるのか等について話し合う。
- 5 役割を交代し、それぞれの役をみんなが体験できるようにする。
※被害者役の場合は、特に傷ついたり、落ち込んだ気持ちをしっかりと吐き出しておくことが大事である。また、吐き出せていない人に対しては、気持ちを十分に聞くようにする。
- 6 日常生活の何気ない一言に気持ちがどのように動くのかを感じながら、どのような表現がお互いに気持ちがいいいのか、ロールプレイを行い、確認しあう。
※この研修の中で起きた言動については、研修外で話題にしない。